賀川記念館
KAGAWA MEMORIAL CENTER
Jesus band 社会福祉法人・学校法人 イエス団

ボランティア

Volunteer 2018年12月 vol. 118

賀川記念館天国屋カフェ「10周年記念プロジェクト」始動！

クリスマスの前夜、賀川豊彦は、自らをクリスマスプレゼントとして、神戸の地にその人生を捧げることを決心しました。それから110回目のクリスマスを迎えます。

「1910年。天国屋カフェの前身『一膳飯天国屋』は、賀川豊彦によって創業されました。それから、100年後2010年4月、『一膳飯天国屋』の想いを引き継ぎ「天国屋カフェ」は開設されました。地域のつながりを考え、様々な“違い”を超えて、集まることのできる場所を提供したい。楽しく食卓を囲んで、一緒に『場』を作りたい。そんな想いを大切にしつつ、出会いと人々の協働を大切にしながら発展を願っています。10周年を迎え、さらなる発展を目指して、『10周年記念プロジェクト』を始動します。」

これは、賀川記念館天国屋カフェ（隣保事業）が、2020年に10周年を迎えるにあたって、これまでの隣保事業のあり様を振り返り、居場所づくりに新たな側面を加えて、新しい出発をしたいとの想いで企画した10周年プロジェクトの呼びかけ文です。天国屋カフェが、人々の集まる居場所としての「カフェ」を超えて、出会いと協働の出発点とした「カフェ」を目指して、2020年までの期間を準備期間として過ごしたいと願っています。

また、若い職員や有志を中心に、10周年記念イベントとして「Rainbow Project」を立ち上げ、多様性を基本テーマとしたイベントを随時企画しています。

この働きは、「ミッションステートメント2009」に掲げられている5つの社会の中でも「違いを認め合える社会をつくりだす」を前面に押し出した企画といえます。この企画を実行するために、職員だけではなく、協働の仲間を募っています。一緒に参加しませんか？

現在天国屋カフェの主体は、ボランティアの働きです。関わる人たちは、生きづらさを抱えた人たちもおり、カフェを居場所として来られたことがきっかけで、つながっていく人もいます。また、この場所が結節点となって、一人ひとりが夢や希望を実現する場となることを願います。

この10周年記念プロジェクトは、10年目を祝うことを超えて、その先を見据えた活動の展開を目指しており、賀川記念館隣保事業企画へと発展してくことを願ってのプロジェクトであることもどうか覚えていてほしいところです。

現在、外国にルーツをもつ子どもたちの学習会や持続可能な社会を目指す市民のグループなども活動を始めています。このような働きが、隣保事業という枠組みで全体的に網羅しつつ、天国屋カフェの場が関わる人たちの居場所となっていくことを願っています。　　天国屋　上内鏡子

第 52 回賀川記念館フェスティバル

写真上：ジャグリング　DROP UME-SUN（ドロップ うめさん）
写真下：のみの市の様子

11 月 4 日、第 52 回賀川記念館フェスティバル（バザー）を楽しく、また事故なく終えることができました。晴天に恵まれ、例年通りすべてのコーナーを実施でき、たくさんの人に来ていただき、にぎわいました。入場者も 600 名を数え、多くのボランティアの皆様、地域の皆様に支えられて開催することができました。

旧賀川記念館の時代、1965 年から始まったこのバザーは、今年で 52 回を迎えました。この 52 回はみなさまのご支援、ご協力に支えられて、この地域とともに歩んできた歴史でもあります。またその開催の目的に地域福祉事業への資金協力とともに、当初から「地域との交流」が掲げられていました。「賀川記念館フェスティバル実行委員会」でも、その歴史を踏まえ、趣旨・目的をしっかり捉えて開催していくことが確認され、進めてまいりました。

今年も趣旨にご賛同いただき、ご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。フェスティバルで得た収益につきましては、その趣旨・目的に沿い、「賀川記念館の働きのために」使わせていただきます。

今後ともご理解・ご支援いただきますように、どうぞよろしくお願いしいたします。

※最終的な売り上げ、収益は以下の通りです。

感謝をもってご報告させていただきます。

収入計	890,457 円（寄付、賛助広告含む）
支出計	211,197 円
収益計	679,260 円

（震災支援で岩手県宮古市の障がい者施設で作られた物品を販売しその売り上げ 19,380 円は、そのまま現地の施設に送らせていただきます）

※収益金につきましては今年度の目的に沿い
①さまざまな人の居場所づくりのため
②賀川記念館ミュージアム運営のため
③友愛幼児園保育教材購入のため
④東日本被災地支援のために
使わせていただきます。

ありがとうございました。

社会福祉法人イエス団　賀川記念館
フェスティバル実行委員会委員長　祐村　明
館長　馬場一郎

写真：布引中学校吹奏楽部の演奏

町の上映会

町の上映会では、8月と11月に平和を願った映画を上映することができました。一つは、**「Be Free! 原爆の残り火を、パレスチナへ」**（写真下）。8月は戦争や平和を考える機会の多い月でもありますので、原発の残り火を紛争の絶えないパレスチナに運び、平和の意味を考える旅をした僧侶のドキュメンタリーの映画です。実は、原爆の残り火を現在まで灯し続けた人がいました。それは、福岡県星野村の山本さん。この火は、僧侶によって、日本各地に運ばれています。その運動が、2011年の原発事故現場の福島県にももたらされました。残り火はそんな意味で平和の象徴です。この平和の象徴を僧侶たちは国境を超え、宗教を超え、人種を超えて、紛争の絶えないパレスチナにも運びました。

この話を聞いた13歳の少女が、この残り火を再びパレスチナに運ぶという偉業を成し遂げました。そんな後日談のある映画です。

実はこの後、実際に13歳の少女が、賀川記念館を訪問して、平和を訴えてくれました。

そして、二つ目は**「風の人になりたい」**。兵庫県のある同和地区で大きくなった映画の主人公岡本工介さんは、その事実をうまく受け入れられないままに青春期を迎えました。そして、飛び出し向かったのはアメリカ。そこで出会ったのは、アメリカ大陸に元々居住していた先住民の人々。彼らもまた日本の同和地区の状況と酷似した歴史や環境の中で暮らしていました。たくさんの人々との出会いから、“インディアン居留区や黒人解放運動の地で〈つながる教育〉の尊さ”を再認識し、現在は大阪の地域で「つながる教育」を進めています。映画鑑賞のあと、ご本人の講演と懇談の時もあり、映画から受けるメッセージを超えて、多くの示唆を与えられました。

※「インディアン」という言葉を岡本さんはあえて使っています。アメリカでは、◯◯系アメリカ人という言い方をします。日系アメリカ人、アフリカ系アメリカ人等。しかし、「インディアン」は、アメリカ人ではなく、長い歴史の中で暮らしてきた原住民族のそれぞれのアイデンティティがあります。だから、あえて先住民のアメリカ人ではなく、岡本さんは「インディアン」という呼び方にこだわっておられました。例えば有名なスー族は、元来はラコタ族、ナコタ族、ダコタ族という各部族でする。スーは、侮蔑的なフランス語です。

この2つの映画は、兵庫県隣保館連絡協議会から補助金を受けて可能となった上映会でした。感謝してご報告いたします。

天国屋ナイトカフェ

竹中さんのファンは多く、6月に引き続いて多くの方々がジャズを楽しみにきてくださいました。今後、年2回(6月と10月)予定するつもりですので、ぜひ来年もご注目ください。

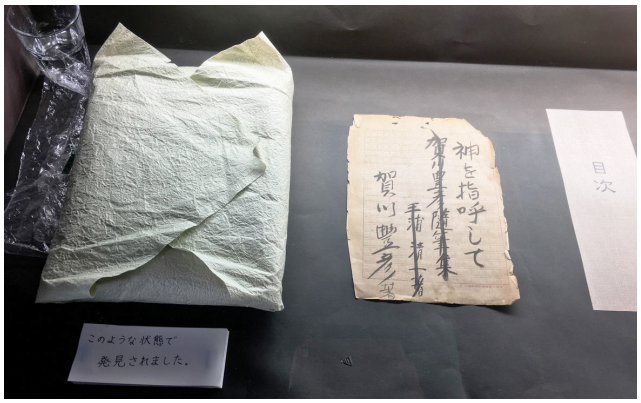
Bell Tree が親子でピアノ演奏を行いました。ご長男の笙太さんは、幼少の頃に脳腫瘍を発症し右手が不自由になったそうです。その後、舘野泉さん等との出会いから左手奏者として努力を重ねて来られました。また、その息子に触発されて、父親の直行さんも子どもの頃に習ったピアノを再開させ、今ではジャズピアノを弾きこなしています。この二人のコラボでの演奏は、みんなの心を熱くしたに違いありません。

昼カフェのボランティア足立明子さんのお姉さん田中純子さんとそのお友達の上野久美子さんが、素敵なクリスマスの夜を演出してくださいました。田中純子さんのお父様は、生前の賀川豊彦とも出会っており、この度の出演もきっと神様の導きだと感じてくださっているようでした。お友達もたくさん来てくださって、賑やかに、また、楽しいクリスマスナイトを過ごせたのではないでしょうか。

特別展『賀川豊彦随筆集―神を指呼して』2018年9月1日～30日開催

この随筆集は、偶然に発見されました。8 年前の2009 年が、賀川豊彦が 21 歳の時に貧しい人たちの地域に入って、そこの人達の為に働いてからちょうど100 年に成り、『賀川豊彦献身 100 年記念事業』を行いました。　その時に、記念事業のひとつとして『賀川記念館』を建て替えることになり、引っ越しの為に古い資料を整理していたところ、和紙に包まれた厚さ2～3センチの紙包みが出てきました。何だろうと思って開けてみたところ、表に『神を指呼して賀川豊彦』と書かれた右の写真のような表紙が見えました。

内容を調べたところ、未発表の随筆であることが分かりびっくりしました。大変貴重な遺稿です。賀川豊彦は日本の民主主義の『グランドデザイナー』であり、コープこうべ等生協の父であり、JA 共済等共済、農民組合、医療生協、信用組合、労働金庫など、働く人々の為の組織を作った偉大な人でしたので、大変強い人だという先入観がありましたが、この随筆集を読んでみると、普通の人と同じように、悩み、挫折し、絶望し、

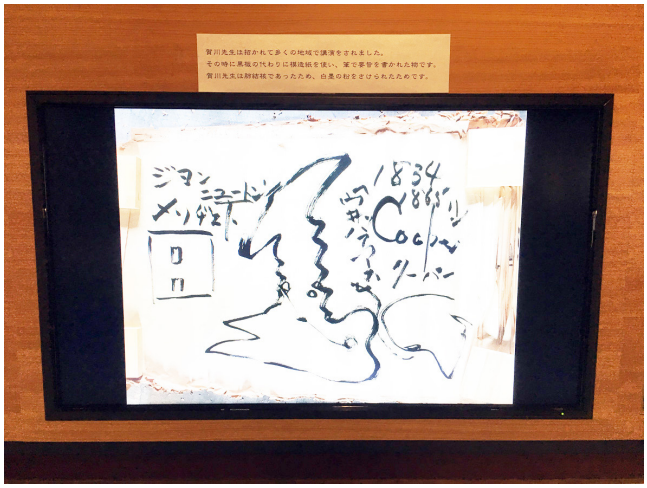


そして神にすがっている様子が読む者の心を打ちます。そのようなことを多くの人に知ってもらいたくて、特別展を開催しました。アジア・ユーラシア総合研究所がこの随筆集を他の本と一緒に出版されました。賀川記念館でも置いていますので是非ご一読ください。

特別展『賀川記念館収蔵品展』　2018年10月1日～12月27日開催

賀川記念館には賀川豊彦に関する資料や記念すべき品等を収蔵しておりますが皆様になかなか見てもらう機会がありませんので、今回展示会を行いました。

展示内容は、賀川豊彦の肖像画、額入りの書、短冊、掛け軸等ですが、一番の目玉は、賀川豊彦が講演をした時に黒板の代わりに使用した模造紙です。賀川豊彦は肺が悪かった為に黒板を使うと白墨を吸うので、その代わりに模造紙を使いました。その内容を 40 枚展示しています。内容は多岐にわたり、キリスト教、生化学、原子、歴史、協同組合、文明、農等の話をされています。実際に書かれた文字や文字間から、講演の息づかいを感じることが出来、実際の賀川豊彦に触れる感じがします。12 月も実施しておりますので、ぜひ賀川豊彦に会いに来てください。お待ちしております。



総合研究所講演会　2018年6月30日・9月1日開催

6 月 30 日（土）14 時より、賀川記念館では、関西学院大学教育学部教授の橋本祐子氏を講師にお迎えし、乳幼児期の教育・保育について考えるシリーズ第3 弾を行いました。参加者は、32 名。できるだけたくさんの参加があるようにと時期を変えて開催しましたがいかがでしたでしょうか。

乳幼児が友だちと関わる中で、いざこざやトラブルは必ず起ります。そのことを通して子どもに何が育つのかを理解し、援助するのが保育者の役割です。子どもの主体的な学びを支える保育者の関わりについて考えてみましょうということで、橋本氏が翻訳をされたデヴリーズとザンによる書『子どもたちとつくりだす道徳的なクラス』の大切なポイントを日本の保育場面の動画や事例を交えて話してくださいました。

２歳児の事例では、友だちと一緒に遊びたかったのにダメと言われて泣いてしまった K くんは、しばらくその場を離れ、別の場所で遊んでいました。自分の感情をおさめるためには少し時間が必要でした。一方相手の Y ちゃんは、そのまま遊び続けようとしますが「悪かったな」という思い（罪悪感）も表れ、気にしています。保育者はこの様子を黙って見守っていま

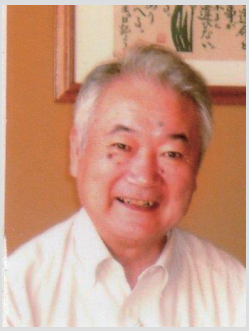
す。日頃の関係性から「一緒に遊びたい」という強い動機づけが２人にはあったのでしょう。
また一緒に遊び始めます。
　これは、いくつかの DVD の中の一つの事例ですが、２歳児でも「自分で何とかしようとする」姿があることを見ることができました。
　私たち大人は、つい「けんかをしてはいけません」という簡単な言葉で解決しようとしてはいないでしょうか。子どもはできない、わからないから教えないといけないと思ってしまってはいませんか。いいえ、子どもはできる力、わかる力を持っていますので、それを十分に育てましょうと促していただきました。
　子どもたちが活発に活動するほど、また子どもが自ら人に関わり、学ぼうとするクラスほど、トラブルが起ります。トラブルは、ほかの人の視点とぶつかる貴重な機会であり、自分たちで「どうすればよいか」を考えることにつながります。子どもは、友だちとのよい関係を維持したいと思うから、何とかしてトラブルを解決しようとするのです。
　では、子ども同士のトラブルに対して大人はどうすればよいのでしょうか。
まずは、①冷静に対応し、落ち着いて行動する。②時間をかけて誠実に対応することです。子どもは、大人の対応の仕方から、トラブルをどう扱うべきかを学ぶのです。③トラブルは子ども自身の問題であり、子どもたち自身が解決するものであることを認識する。
④子どもたちにトラブルを解決する力があることを信じる。あくまでも援助者である大人は、解決に必要な助言をする役であることを認識したいと思います。
　具体的な援助として、⑴まずは、子どもたちの安全を守る。⑵子どもを落ち着かせる。⑶何がトラブルになっているかをできるだけ明らかにしようとする。⑷それぞれの子どものトラブルのとらえ方や感情を認め、受け入れ、尊重する。⑸自分の気持ちや思いを言葉で伝え、お互いの話を聞けるように（ゆっくりと）援助する。⑹自分がそのトラブルに関わっていることが認識できるように促す。⑺どのように解決したらよいか、子どもたちが考える機会を与える。⑻子ども同士が関係を修復できるよう援助するが、不誠実な謝り方を強要しない。⑼子どもたちから解決法がでない場合には提案してみる。⑽お互いが納得することを大切にする。⑾どちらになってもよい場合に使える公平な手段を教える。（だれにしようかな、じゃんけん、くじ引きなど）⑿泣いたり傷ついたりした相手に「何とかしてあげられるか」を考えるように援助する。⒀子どもが興味を失ったり、気持ちがおさまったりした場合は、それ以上追求しない。
という視点を示していただきました。いかがでしょうか。
　さて、トラブルを通して（少しずつ）子どもは何を学ぶのでしょうか。
・相手の気持ちや考えが自分と違うこと（視点取得）
・相手の気持ちをわかろうとすること（共感、思いやり）
・感情を自分なりにコントロールすること
・自分なりに乗り越える方法を見つけること（何とかようとする）
・仲直り（関係の修復）ができることを実感すること
・人と関わる上で大切なルールやきまりについて感じ、考えること（規範意識の芽生え）
　トラブルを通してこれだけ大切なことを学んでいると考えると、大人の考えで止めてしまうのは何ともったいないことでしょう。トラブルも子ども自身が解決しようとするということを、しっかりと捉え、これからも子どもたちと向き合っていきたいと思いました。
「主体的な学び」については、また第 4 弾へと繋げていきたいと思います。橋本祐子先生、どうぞよろしくお願いします。

総合研究所講演会

　９月１日（土）14 時～16 時に賀川記念館ホールにおいて、兵庫教育大学大学院教授、小南浩一氏の特別講演会を開催しました。
　冒頭『この講演会は、戦後、賀川豊彦が展開した世界連邦運動の理念が憲法９条に有ったことを明らかにし、あらためて賀川豊彦と日本国憲法の関係について話をしたい』とのべられました。
　賀川豊彦は戦前戦後を通じて、数多くの社会運動とともに平和運動に邁進しました。戦前では、特に第一次大戦後、タゴールやガンジーらとともに『徴兵制度廃止の誓い』に署名、国際連盟に提出しました。同時に国際連盟を通じて新渡戸稲造らと連携した平和工作を展開しました。戦前の賀川豊彦の平和運動は総じて現実的なものであったと云えます。
　しかし、ヒロシマ、ナガサキを体験した第二次大戦以後の賀川豊彦は、『絶対的平和主義者』へと転換しました。1945 年 8 月 15 日の敗戦の 4 日後、松沢教会における賀川の戦後初の説教が『世界連邦』についてでした。『無戦世界の建設、世界連邦国家を組織する大理想を持って、新日本建設に邁進しなければ成らない』とその決意を語っています。９条の戦争放棄の宣言は、原爆による人類滅亡の危機を反映したものであり、滅亡の危機から脱出する手だては『世界国家』しかないというのが賀川豊彦の主張でした。このように、永遠に武装を放棄した日本に生きる道は世界連邦創設以外にないと主張し、世界連邦運動の思想的基盤に９条があることを明言しています。
　戦前、弱い立場の側に立って、貧民や労働者、農民の人間らしく生きる権利を求めて運動を展開した賀川豊彦の精神は、戦後、新憲法の 25 条や 27 条に結実しました。
　このように見れば、賀川豊彦の平和運動や弱者救済運動は、日本国憲法の９条と 25 条によって結実したと云えるのではないでしょうか、と締めくくられました。

鳥飼慶陽（とりがいけいよう）の新連載　賀川豊彦を読む

第二回「特集・賀川豊彦を現代に語り継ぐ ― 賀川豊彦生誕 130 周年記念事業―」



鳥飼慶陽さんの新連載「賀川豊彦を読む」、その第2回は、『特集・賀川豊彦を現代に語り継ぐ―賀川豊彦生誕130周年記念事業―』です。鳥飼さんは、1966～1968年、神戸イエス団教会伝道師として活躍され、その後、賀川豊彦に倣って長田区に「番町出合いの家」を開設されました。賀川豊彦の研究者であり、現在は賀川豊彦の同労者にフォーカスをあて多くのブログを公開されています。

今回は、公益財団法人生協総合研究所の雑誌『生活協同組合研究』の特集を取り上げてみたいと思いましたら、見事な企画を実現された菅谷明良さんが、本特集の冒頭に一文を載せておられますので、菅谷さんのご了解を得て、これをそのまま収めさせていただきます。記念館にも所蔵されていますが、ぜひご一読を！

≪今年は、生協・協同組合の父賀川豊彦の生誕 130 周年にあたる。賀川豊彦という人物に、角度を変えながら光をあて、現代に語り継ぐ意義を探ってみた。

山折哲雄論考「賀川豊彦 いま いずこ」では、賀川豊彦の思想にはその時代的限界や問題点が多くあったことを前提に論じていただいた。彼ほど光と影とのコントラストが際立つ人物も数少ない。賀川の思想と実践は、永遠の現実を乗り越えよと我われに訴える。

鳥飼慶陽論考「死線を越えて我は行く」では、百年前の「死線を越えて」の時代観を伝えてほしいとお願いした。賀川豊彦はスラムに移り住み、日常的に刀やピストルで脅迫され、命の危険にさらされたが、それでも幸福だった。彼は、良寛さんのようにたくさんの子供たちに慕われ日が暮れるまで遊んだ。スラムで明日の糧にも困る人たちが、病人にはあるものを分け合い親身に面倒を見る、極貧の中でも困った者同士が助け合う絆があった。そこに「貧しい人たちは幸いである」をみた。

伊丹謙太郎論稿「協同組合運動を軸とした賀川豊彦の思想と実践―素描」では、協同組合の角度から賀川豊彦の足跡を時代ごとに光をあてていただいた。賀川は欧州各地で協同組合による平和を訴えて回った。それが多くの共鳴者を呼び、やがて EC（欧州共同体）へと結実していった。

岩田三枝子論考「賀川ハル」では、賀川豊彦の妻、同労者の一人、豊彦と同年生まれで共に生誕 130 年である賀川ハルに光をあてていただいた。豊彦との出会いによってハルの人生が劇的に変えられていく。我われも賀川につながる同労者の一人である。

松野尾裕論考「賀川豊彦―希望の経済」では、賀川豊彦の描いた社会構想は、柄谷行人氏が説く「交換様式 D」の社会（互酬の原理を高次に回復した社会）につながると結ぶ。柄谷はいう、交換様式 A は呪力、交換様式 B は王＝祭司の権力、交換様式 C は貨幣の物神崇拝として、個々人にとって超越的なものとしてあらわれる。そしてこれら交換様式 A・B・C を超える交換様式 D は、個々人のアソシエーションとして相互扶助的な共同体を創り出す。国家や民族を超えて……。

コラムでは、松沢資料館副館長杉浦秀典氏に、協同組合横断での「カガワ協同組合スクーリング」の取り組みを紹介していただいた。また、青竹豊氏には、今年 4 月に発足した日本協同組合連携機構（JCA）の紹介と今後の協同組合間連携への期待を語っていただいた。

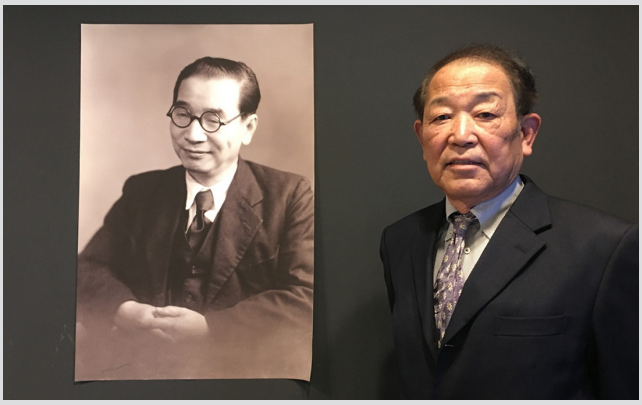
賀川豊彦は、地図なき現代に我われが向き合う方角を指し示す。彼は苦難をも誇りとした。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。希望は私たちを欺くことがない」とあるように。「未来ハ我等のものな里」、未来は我らのすでに “at hand”（手元）にある。彼が理想とした社会は、まだおぼろげだが、我らの一歩が未来をかたちづくる。「同志よ！共に歩まん。」賀川は語り続ける。（菅谷 明良）≫

賀川記念館のボランティア ⑬　「語り部ボランティア」志方 京三さん

賀川記念館にはたくさんのボランティアの方々が関わっています。シリーズ「賀川記念館のボランティア」第 13 回は、賀川記念館で語り部ボランティアとして関わってくれています志方京三さんを紹介致します。

賀川記念館で、「語り部」二期生として活動させていただいて、5 年が過ぎました。そもそも、賀川豊彦を知ったのは、私がコープこうべの前身である、灘神戸生協に入所し、職員が学ぶ「生協学校」で、その人となりを 1 年かけて学んだ時でした。座学を離れ、賀川がスラムの地でやったその後の活動の源となった数々の足跡を訪ね学びました。これが現在の「賀川ウォーク」につながっています。その学びの中で、賀川が神学校の授業の後、スラムの街頭に立ち、路傍伝道をしていたという場所で、説明をする教官の方が、『こんなすごいことをした人が、我々の父なのだ』と、涙ながらに話すのが不思議でした。何年か後に、流通研修でアメリカ西海岸に行った時、当時カリフォルニアにあった、バークレー生協を見学した時、説明して下さる方が、『あなたたちは、ドクター賀川の息子だ』と言われ、よくわからないまま、うなずいたのを思い出します。

いま、そのことが改めて体験できるのも、「語り部」としての喜びです。コープこうべを定年で終え、元々上司であった、現賀川記念館参事をされている、西 義人さんに誘われて、「語り部」としての学びを始めました。先輩の方たちの学びをベースにして、改めて賀川豊彦のこと、妻ハルのこと、関係することなどを調べ、学ぶ中で彼のすごさを知ることができました。



私は、そんな賀川豊彦を父とし、厳しくも優しい母である組合員さんに育てられ、先輩同僚の兄弟姉妹と共に、生協運動をずっとやれたことは生涯の誇りでもあります。

定年後も間接的ではありますが、賀川豊彦を通し、生協運動に関われることは、この上ない喜びでもあります。

こんな素晴らしい父である、賀川豊彦のことを、来館される皆さま方に、真心をこめて、語り続けていかねばと思っております。

賀川記念館賛助会ご入会のお願い

賀川記念館は、「一人は万人のために、万人は一人のために」を標語とし、「みなさんとともに生きる社会」を目指して事業を進めてまいります。ぜひ、賀川記念館賛助会へご入会くださり、記念館の働きを支えてくださいますようお願い致します。

賛助会

賀川記念館の働きを支援することを目的としています。

賛助会会費

年額は下記の通りとし、一口以上、上限はありません。
個人：一口 1,000 円　団体：一口 10,000 円
会費は年度ごとの更新とします。

賛助会員入会と退会

「賀川記念館賛助会 入会申込書」に必要事項をご記入いただき、会費を納入ください。退会される場合は事務局までご連絡ください。

賛助会費の使途

賀川記念館の諸事業に活用いたします。

賛助会費の税控除

個人の方は、所得税にかかわる寄付金控除の対象になります。
団体の方は、法人税法により「損金算入」することができます。
領収書をご希望の方はお申し出ください。

賛助会費のお振り込み方法

郵便局：01140ー8ー3721　社会福祉法人イエス団 賀川記念館
銀行：三井住友　三宮支店　普通　3253938

記念館ミュージアム入場者数

6 月	一般　58 名	団体 248 名	行事 243 名	合計　549 名
7 月	一般　81 名	団体 324 名	行事 128 名	合計　533 名
8 月	一般　65 名	団体　54 名	行事 104 名	合計　223 名
9 月	一般　41 名	団体 101 名	行事 148 名	合計　290 名
10 月	一般　52 名	団体 366 名	行事 175 名	合計　593 名
11 月	一般　20 名	団体 356 名	行事 740 名	合計 1116 名

賀川記念館の歩み

2018 年

6 月

1（金）　鳴尾南中学校（説明・見学）
5（火）　埼玉県労福協（見学）
6（水）　本田技研労働組合（説明・見学）　コア 100 賀川例会
7（木）　竹口様（説明・見学）　コープ住宅（見学）
13（水）　全労済 茨城・山梨・関東（説明・見学）
14（木）　神戸聖隷事業団（説明・見学）
15（金）　近畿労金労働組合（説明・見学）　ナイトカフェ
16（土）　神戸大学（説明・見学）
20（水）　新潟県労福協（出張講演）
24（日）　関西学院大学山本ゼミ（説明・見学）
26（火）　韓国キリスト教長老会（説明・見学）
27（水）　全労済 栃木・千葉（説明・見学）
28（木）　コープ情報システム（見学）
30（土）　神戸市立外国語大学（展示説明）　講演会（橋本祐子氏）

7 月

1（日）　パイオニア労組（説明・見学）　全労済 東京（説明・見学）
5（木）　尼崎教会（見学）
8（日）　全労済 埼玉（説明・見学）
11（水）　全労済 群馬・神奈川（説明・見学）
13（金）　大阪市港区職員労働組合員（説明・見学）
14（土）　桜丘高校孫便りの会（説明・見学）　ならコープ（見学）
20（金）　ナイトカフェ
26（木）　和歌山生協連（説明・見学）　Birth 神戸（見学）
27（金）　全国歴史研究協議会（説明・見学）
28（土）　連合富山・富山地域協議会（説明・見学）
　　湖西地区労福協（説明・見学）
29（日）　韓国空軍中央教会（説明・見学）

8 月

7（火）　兵庫県労福協（出張講演）　めぐみなチャペル（見学）
8（水）　コア 100 賀川例会（JF 兵庫漁連）
9（木）　ドンヨン教会（見学）　ヨルノル L.L. 教会（見学）
19（日）　部落解放全国高校生集会（説明・見学）
21（火）　芦屋市人権推進協議会高校教育部会（説明・見学）
25（土）　町の映画会（Be Free! 原爆の残り火を、バレスチナへ）
29（水）　あいち生協（見学）
30（木）　全労済 東京（出張講演）

9 月

1（土）　講演会：賀川豊彦と日本国憲法（小南浩一氏）
5（水）　奈良市役所人権推進協議会（説明・見学）
14（金）　島根県労福協（説明・見学）
21（金）　ナイトカフェ
22（土）　地域と協同の研究センター（見学）
26（水）　和歌山東牟婁地方隣保館連絡会（説明・見学）
27（木）　佐用コープ委員会（説明・見学）

10 月

2（火）コープ六甲（説明・見学）
6（土）姫路福音教会（説明・見学）
7（日）夢っ子研究会（展示説明）　フィリピン農業研修（説明）
12（金）JA 共済連（見学）　香港グループ (見学）
14（日）全労済 東京（説明・見学）
16（火）コア 100 賀川例会（近畿ろうきん）
18（木）コープみやざき（説明・見学）
19（金）ナイトカフェ
22（月）神戸市立中央小学校（説明・見学）
23（火）日本 YMCA ステップ研修（説明・見学）
30（火）東海コープ虹の会（説明・見学）

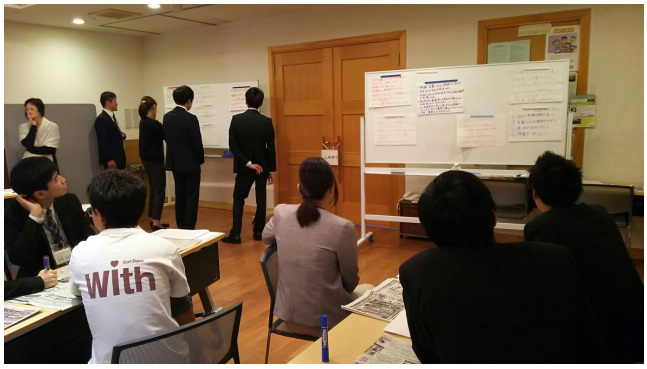
11 月

1（木）　静岡県労福協（説明・見学）
2（金）　全労済京都（説明・見学）
3（土）　コープユニオン（説明・見学）
4（日）　賀川記念館フェスティバル
6（火）　コア 100 賀川グループ新人研修
7（水）　全労済 栃木・群馬・関東（説明・見学）
8（木）　舞鶴市北浜市民交流センター（説明・見学）
　　奈良県五條市本町人推協（説明・見学）
9（金）　コープ自然派事業連合（説明・見学）
11（日）　全労済 埼玉・神奈川（説明・見学）
13（火）　電機連合（説明・見学）
15（木）　清風公民館（説明・見学）
16（金）　ナイトカフェ
24（土）　コープおきなわ（説明・見学）

コア 100 賀川グループ新人研修

「コア 100 賀川グループ」とは、賀川豊彦を組織の創設者、あるいはそれに準ずるものとしている組織で、「賀川豊彦献身 100 年記念事業」の時にその実行を担った組織の集まりです。コープこうべ、全労済、近畿ろうきん、兵庫県漁連、JA 兵庫、共栄火災、イエス団、YMCA、ならコープ等で、毎年一回シンポジュームを行い、また年に 3 ～ 4 回集まり情報交換を行っています。これらの組織の新人を集めての研修会を毎年行っています。今年は 5 組織 11 人で行いました。

午前中に賀川豊彦の『死線を越えて』の映画を見、午後から『賀川豊彦の思想と実践』についての講義を聴いた後、 4 つのグループに分かれて、グループディスカッションを行いました。その結果、それぞれの現在の問題が浮かび上がり、今後行うべき課題が明確に



なり、新たな目標に向けて頑張る決意が出来ました。今年も有意義な研修ができました。

2018 年 4 月より、港島児童館の指定管理を受けました。

イエス団はポートアイランドで、神戸市立医療センター中央市民病院の院内保育園として杉の子保育園を運営をしています。そして中央区では、友愛幼児園、二宮児童館、学童保育ひまわりで子どもたちの事業を行っています。

児童館は、子どもたちにとって大切な事業です。18 歳までの子どもたちの居場所として、また誰でもが利用できるオープンなスペースとして、もっと展開していける場面があるのではないかと思います。神戸市は学童保育も児童館が担ってきました。学童保育のニーズも高くなり、高学年の受け入れ、19:00 までの運営も進んでいます。また地域の民生委員や小学校の先生、自治会の方々に運営委員になっていただき、ご意見をいただきながら進めていく形を取っており、本当に地域にどっぷりと入り込んで運営をしていくことが可能だと思います。

ポートアイランドには外国籍等の人たち、子どもたちの在住率が高く、児童館として、そのような子どもたちに対して何ができるのか、地域のさまざまな課題に取り組んでいける児童館としてやっていきたいと思います。ポートアイランドという地域で、私たちは何ができるのか、地域は何を必要としているのか、考えていきたいと思います。 港島児童館　館長　馬場一郎

天国屋ナイトカフェ　2018 年 1 月 18 日（金）17:30～

催物　1 月 18 日 (金)　19：00～　ぱすてる（ピアノとフルート演奏）
2 月　8 日 (金)　19：00～　JAZZ SESSION
3 月　8 日（金）　特にありません　　どなたでも、お越しください。

年末年始のお知らせ

賀川記念館ミュージアムは、12 月 28 日（金）～1 月 3 日（木）休館いたします。
天国屋カフェは、12 月 22 日（土）～1 月 4 日（金）休業いたします。

＜訂正＞前回のボランティア vol.117 にて小説「死線を越えて」の発売を 1910 年と掲載しましたが、正しくは 1920 年です。

ボランティア vol. 118
賀川記念館
KAGAWA MEMORIAL CENTER
社会福祉法人・学校法人 イエス団
esus band

発行日　2018 年 12 月 20 日
発行者　馬場一郎
発行所　賀川記念館
〒651-0076 兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20
tel：078-221-3627　　fax：078-221-0810
ホームページ　http://core100.net
お問い合わせ E-mail　office@core100.net